

PPIHグループの コアバリュー「源流」

創業者である安田隆夫の考えと思想が
明文化された企業理念集「源流」。
PPIHグループの全従業員と役員が
受け継ぐべき行動指針であり、
私たちの矜持と存在理由そのものです。

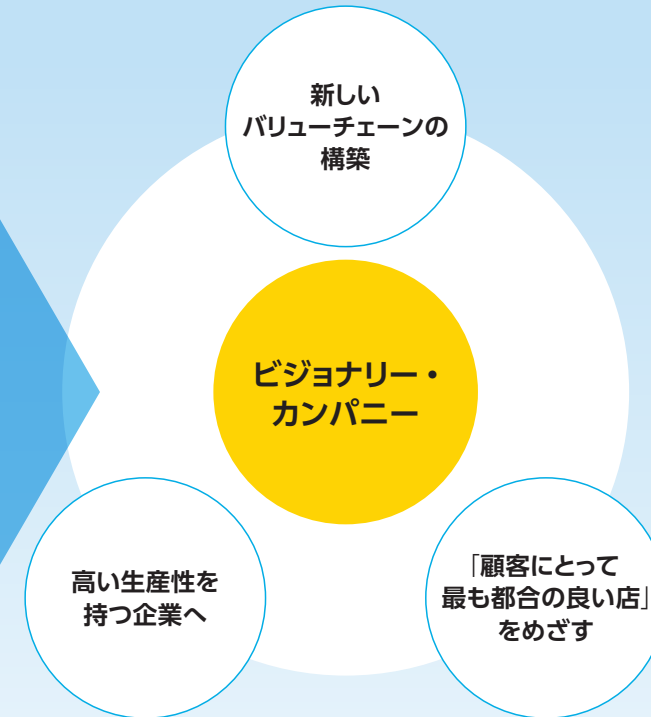


ドン・キホーテを始祖とするPPIHは、流通業を通じて顧客に喜びと感動を与え、
社会に貢献することを目的とした国際的企業集団である。
我々は常に顧客が望むものを望む形で提供することによって、
顧客満足を最大化させ、その結果として消費の活性化と内需の拡大を促し、
地域と国家の文化・経済発展に資する努力を惜しまない。(源流より)

源流経営

これからのPPIHグループ

**“顧客最優先主義”に基づき、
変化した顧客や社会にとって必要とされる
ビジョナリー・カンパニーをめざす**



長期持続的な社会価値と経済価値を創出

ステークホルダーの皆さまへの貢献とPPIHグループの企業価値拡大を同時実現

- 顧客最優先主義というPPIHの企業原理を組織の隅々まで貫く企業
- 変化に対応し、果敢な挑戦を貫く企業
- 常に成長し、大胆な目標を掲げ続ける企業
- コアバリューを次の高みに持っていきイノベーションを目標とする企業
- 個人の目標ではなく、PPIHという企業の成長に野心を持ち、
経営、継続的成長のバトンをタイムリーに次世代に渡すことのできる経営陣

編集方針

PPIHグループは、いかなる環境の下でも「源流」に則った自己変革を実践し、顧客最優先主義を貫き成長し続ける国際的企業集団です。これからはコロナ禍後のニューノーマルを勝ち抜くビジョナリー・カンパニーの実現に向け、顧客最優先主義の徹底と持続的な成長と企業価値向上を支えるサステナビリティを強化していく方針です。今回の統合レポートでは、国際統合報告評議会（IIRC）の開示フレームワークを参照し、「戦略及びビジネスモデルの持続性と将来像」をお伝えするために「ストーリー性」の強化に力点を置き企画構成をいたしました。また編集にあたっては、重要度の高い内容にフォーカスし、分かりやすい構成をめざしました。

対象範囲

可能な限り連結決算対象の国内外PPIHグループ各社を報告対象としましたが、項目により、報告対象が異なる場合があります。

対象期間

2022年7月1日～2023年6月30日
活動内容には一部直近の内容も含まれます。

目次

About PPIHグループ

- 03 企業価値創造の歩み
- 05 PPIHグループとは
- 07 2023年6月期実績とPPIHグループがめざす方向性

トップコミットメント

- 09 トップメッセージ

PPIHグループの価値創造

- 11 PPIHグループの価値創造モデル
- 13 戦略統括メッセージ
- 15 PB責任者メッセージ
- 17 インバウンド責任者メッセージ

マテリアリティの進捗

- 19 PPIHグループのサステナビリティ
- 21 事業活動で生じる環境負荷の低減
- 23 多様性の容認と働きがいのある職場づくり
- 25 持続可能な商品調達と責任ある販売
- 27 PPIHグループのステークホルダーエンゲージメント
- 28 確固たるガバナンス

事業の進捗

- 35 国内ディスカウント事業
- 37 国内GMS事業
- 38 海外事業

データセクション

- 39 役員一覧
- 43 スキルマトリックス（役員）
- 45 社外取締役メッセージ
- 47 財務・非財務サマリー
- 49 会社情報・株式情報

見直しに関する注意事項

本レポートには、当社及び関係会社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。これらの記述は過去の事実ではなく当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見込みです。また、経済動向や個人消費、市場需要、税制や諸制度に関わるリスクや不確実性を含んでいます。それゆえ実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性のあることをご承知おきください。

企業原理

顧客最優先主義 PPIHグループが、突き詰めるべき姿勢

「顧客最優先主義」。これはPPIHグループのあらゆる行動や判断の基盤となる企業原理です。私たちのすべての店舗は、お客さまに生かされ、お客さまのご支持があって成り立っています。また同時に、その街の生活インフラとしての役割と責任を担っています。「顧客最優先主義」を目標とする「理念」ではなく、不変の「原理」とすることで、企業経営から店舗運営に至るすべてがこの原理に基づき構成されています。

経営理念

- 第一条**
高い志とモラルに裏づけられた、無私で真正直な商売に徹する
- 第二条**
いつの時代も、ワクワク・ドキドキする、驚安商品がある買い場を構築する
- 第三条**
現場に大胆な権限委譲をはかり、常に適材適所を見直す
- 第四条**
変化対応と創造的破壊を是とし、安定志向と予定調和を排する
- 第五条**
果敢な挑戦の手を緩めず、かつ現実を直視した速やかな撤退を恐れない
- 第六条**
浮利を追わず、中核となる得意事業をとことん突き詰める



創業会長 兼 最高顧問
安田 隆夫